

飯豊連峰縦走 山行報告

- 目的地：地神山(1850m)～北股岳(2025m)～大日岳(2128m)～飯豊本山(2105m,日本百名山)
- 日程：2007年7月19日(木)～22日(日)
- 参加者：参加者7名(男性3名,女性4名)
- 参加費：26,000円(共同食料費、山小屋宿泊費、ガソリン代660km、高速料金、車・運転謝礼、温泉、事故プール金等)

5. コースタイム

19日	足の松登山口～姫子の峰～水場～大石山～頬母木小屋
	6:20発 7:30 9:30～10:10 12:30 14:15着
20日	頬母木小屋～地神山～門内岳～北股岳～かいらぎ小屋～かいらぎ岳～鳥帽子岳～御西小屋
	4:50発 6:20 8:00 9:25 10:10～11:05 11:45 12:25 13:40着
21日	御西小屋～大日岳～御西小屋～飯豊本山～草履塚～切合小屋～三国小屋
	5:30発 6:55～7:15 8:45～10:30 12:00 14:05 15:00 16:25着
22日	三国小屋～地蔵分岐～御沢キャンプ場
	6:50発 8:00 10:55着

6. 歩行 レベルD 登山上級

7. 山行状況：梅雨あけ前で天気が心配でしたが、初日は晴れ。新潟県側の足の松登山口からの登りはしょっぱながらの急登で、寝不足の体にはつらい。大石山まで標高差約1100mの登り。山小屋が自炊のため3泊分の食料もあるので、荷物も重い。ゆっくり登って途中の水場で水を補給。ところが、その水場は約80mも下ったところにあり、往復するのに体力を消耗。それから先の登りにブレーキがかかる。登るにつれ気温が上がり、もうバテバテで、やっとの思いで大石山に到着。時間が早いので少し昼寝をしてから出発。ほどなく頬母木(たもき)小屋着。宿泊者が少なく、2階を占有。この日の夕食は屋外で日本海を眺めながらの焼肉パーティで盛り上りました。

2日目は、この縦走で一番長い距離を歩くので、早めに小屋を出発。門内岳は霧の中でしたが、その先はガスも晴れ、なだらかな縦走路を、花と残雪を味わいながらゆったりと歩きました。これが飯豊連峰の一番の楽しみでしょう。途中のかいらぎ小屋では、翼を広げると2mにもなるという「イヌワシ」の飛翔をみました。かいらぎ小屋から先は、雪渓を横切る難所もありましたが、無事通過。明日登る大日岳や飯豊本山を眺めながらの快適な山陵歩きを楽しみました。この日も予定より早く御西小屋に到着。この小屋も宿泊者が少なく1階を占有。夕食はなんと「うなどん」でした。食事付きの山小屋より豪華な夕食です。

3日目は朝から雨になってしまいました。雨具をつけて、この縦走の最高峰である大日岳をピストン。風がないので雨は気にならない。このコースは高山植物がとにかく豊富で、次から次へと可愛らしい花が顔をみせてくれる。大日岳頂上でゆっくり散策を楽しんだあと小屋に戻り、早めの昼食をとって、また出発。雨の中でしたが、御西岳を通過するあたりの湿原とお花畠がとにかく素晴らしい。このあたりが飯豊連峰の最高の見所かも知れない。飯豊本山はガスの中で何も見えませんでしたが、少し下ったところのヒメサユリが、色が濃く印象的でした。この日は切合小屋に泊まる予定でしたが、三国小屋まで足を伸ばす。しかし切合小屋から三国小屋まではアップダウンが厳しく難儀しました。三国小屋もすいていて1階を占有。この日の夕食はカレーライス。この小屋も新しく、トイレがきれいで快適でした。

4日目は、下るだけなので遅めに出発。小屋を出てすぐに剣ヶ峰の難所があるが、難なく通過。あとはひたすら下って、福島県側の御沢キャンプ場に昼前に到着。長かった縦走を思い返す。

下山口の御沢キャンプ場から登山口手前の胎内ヒュッテまでのジャンボタクシー代は67,000円、それでも電車で行くよりは大幅に安ががり。胎内ヒュッテから登山口までのバス代は無料。3泊とも小屋はきれいで宿泊料は1500～2000円。自炊で荷物は重くなりましたが、これこそ山登りの醍醐味を味わいました。

9. 写真

縦走開始直後の地神山



縦走路の雪渓



稜線から飯豊本山を望む



最高峰の大日岳はガスの中



イイデリンドウ



ヒメサユリ



コバイケイソウ



シラネアオイ



ニッコウキスゲ



ショウジョウバカマ

